



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成30年9月28日

校長 福田 俊彦

「する」子供の姿に

校長 福田 俊彦

運動会への取り組みから3週間が経ちました。子供たちには「みんなで創る運動会」として、「させられる」ではなく、「する」運動会を目指そうと話をしてきました。運動会の練習などから見られる子供たちの「する」という姿を届けます。

赤白の応援団長の言葉です。「2年続けて白組が優勝しています。僕は、今年、赤組になりました。今年こそ赤組が優勝できるようにと思い、応援団長になりました。」「4年生、5年生と副団長をしてきました。その経験を活かしたくて応援団長になりました。」どうでしょう。それぞれの思いには、「させられる」を感じません。「する」という意思を感じます。頼もしい限りです。低学年リレーの選手の話です。「リレーの選手になり楽しい。」「3年生でもリレーの選手になり、1年生、2年生に失敗しても優しく教えることが大変です。」この2人の話から考えました。リレーの楽しさに触れている1、2年生の思い。そして、3年生という立場からリレーに参加している子供の思い。立場が思いを育てていること、そして、自ら他を思う学びをしていること。運動会という学習の場で、日常の学びを基盤とした子供の成長を感じる場面でした。

学校には全校で取り組む行事があります。学年で取り組む行事があります。そこでは、先生からの説明も指示もあります。それは安全健康、学びを高める等の面から必要なことです。その後のです。子供がそれらを自分のこととして捉え、どのように取り組んでいくか。行動していくかということです。「難しい。」「大変。」「疲れる。」という言葉は聞かれます。運動会を通して、どのような学びをもとに、成長していくか。その成長を日々の生活に繋げていくか。教育として大切なことのひとつです。だから、子供に問います。「どうして、大変。」「何が難しい。」そのやりとりの中で、目標が出てきます。そして、「だから、頑張る。」が聞かれます。

団体競技では、ルールを共有した上で、より力を出せるよう作戦について話し合っている子供の姿を見ます。休み時間に友達と練習をしている姿を見ます。朝礼台の前で、全校で行う準備運動の練習、応援団の練習をしている姿を見ます。それらの姿が他の子供の心の心を動かします。「頑張る。」「一緒に盛り上げよう。」これが今日の自分より一歩先の明日の自分をめざしていくことに繋がるのです。

平成最後の運動会、当日も子供にとって「する」という自分を感じられるようにします。「する」という自分の姿を、次の学びに繋げることは大人、教育の役割です。今後も南町小学校では、上記のことを継続していきます。